

別記様式第8号(別記1の第6の1、別記2の第5、別記3の第6関係)

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告(令和5年度報告)

佐賀県

1 被害防止計画の作成数、特徴等

被害防止計画は、県内20の全市町で策定されている。被害防止計画の対象鳥獣は、県内の農作物被害金額の約7割を占めるイノシシが全市町の計画に含まれ、その他カラス、カモなどの鳥類、タヌキ、アナグマ、アライグマなどの中型哺乳類やニホンザルが含まれる市町もある。全ての市町でワイヤーメッシュ柵や電気柵の導入による侵入防止対策や捕獲対策を行っているよう計画されている。

2 事業効果の発現状況

協議会を中心に、関係機関で連携し被害対策研修会を開催するなど、地域一体となった効率的な被害防止対策への取組を進められており、被害をより軽減するため、地元猟友会との連携を深め、捕獲対策の強化がなされている。また、ワイヤーメッシュ柵や電気柵の設置とあわせて、設置後の適切な管理についての指導を行うなど、地域をあげた被害防止対策取組みの推進につながっている。

3 被害防止計画の目標達成状況

ワイヤーメッシュ柵や電気柵の設置による侵入防止対策、鳥獣を集落に近づけない棲み分け対策と合わせて捕獲活動を実施することで、被害低減が図られた協議会は5協議会であった。一方、侵入防止策を設置していない地区や圃場を中心に被害が発生し、被害金額および被害面積の達成率70%以下の協議会は7協議会であった。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積				
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率		
佐賀市鳥獣被害対策協議会	佐賀市	R2	イノシシ アライグマ タヌキ カラス ドバト ヒヨドリ カモ スズメ	鳥獣被害防止総合対策交付金 イノシシ用箱ワナ ワイヤーメッシュ柵 電気柵	44台 772m 2,564m	佐賀市鳥 獣害 対策協 議会	R3.3 R3.3 R3.3	100	【箱わな導入による捕獲頭数推移】 イノシシ 3か年総捕獲頭数:6,231頭(令和2年度から令和4年度まで) (前々期3か年:3,937頭、前期3か年:4,397頭) 年次推移 令和2年度:1,704頭(捕獲期間 通年) 令和3年度:1,663頭(捕獲期間 通年) 令和4年度:2,713頭(捕獲期間 通年) 捕獲頭数は増加傾向にあり、令和4年度は過去最高の捕獲頭数となった。要因は、個体数の増加も考えられるが、箱ワナ設置台数の増加と隊員の捕獲技術向上などが考えられる。しかし、高齢化に伴う隊員の減少は避けて通れない今後の課題である。	18,695	11,035	264%	22.82	16.35	214%	被害面積、被害金額ともに大幅に目標をクリアすることができた。 令和4年度に設置された自衛活動組織、捕獲班への活動支援やWM柵の点検・補修、集落内の環境整備などイノシシによる被害防止対策を周知してきた結果、地域住民の活動意識が高まり被害を減少させたと推測される。また、安定した箱わなの供給により設置台数が増加したことと隊員の捕獲技術向上により捕獲頭数が増加し被害の軽減を図ることができた。今後も捕獲対策、棲み分け対策、侵入防止対策を実施し被害防止の軽減に努めたい。	ワイヤーメッシュ柵の設置・管理の推進や、自衛活動組織・捕獲班への活動支援の成果により、被害金額及び被害面積の目標達成につながっている。 鳥獣被害対策研修会も適時研修テーマを設定しながら、継続的に開催するなどソフト面の支援も充実されているところである。今後も継続した取り組みをお願いしたい。
		R3	イノシシ アライグマ タヌキ カラス ドバト ヒヨドリ カモ スズメ	鳥獣被害防止総合対策交付金 イノシシ用箱ワナ ワイヤーメッシュ柵(R2当初分) ワイヤーメッシュ柵 電気柵 被害防止対策研修会(鳥類駆除)	52台 1,000m 588m 1,909m 1回 33人	佐賀市鳥 獣害 対策協 議会	R4.3 R4.3 R4.3	100	アライグマ 3か年総捕獲頭数:793頭(令和2年度から令和4年度まで) (前々期3か年:283頭 前期3か年:639頭) 年次推移 令和2年度:247頭(捕獲期間 通年) 令和3年度:202頭(捕獲期間 通年) 令和4年度:237頭(捕獲期間 通年) 捕獲頭数は増加傾向にあり、イノシシ同様の効果と課題が考えられる。	18,695	11,035	264%	22.82	16.35	214%	①2回開催した被害防止対策研修会では、鳥類駆除対策と集落くみの総合対策の重要性などを講師を招き研修を行った。 ・被害金額、面積ともに目標を達成し、事業効果が確認できる。 ・被害金額の大きい品目や鳥獣種を中心に、重点地域を増やすことにより被害軽減につなげる事が出来た。 ②箱わなの導入により捕獲を強化して、捕獲数を増加することにより被害軽減につなげる事が出来た。 ③侵入防止柵の導入により、労力及び被害面積の低減につながった。被害対策を集落で連携して行うことで、被害対策を行う必要性や維持管理を継続する重要性を理解することができた。	・被害金額、面積ともに目標を達成し、事業効果が確認できる。 ・被害金額の大きい品目や鳥獣種を中心に、重点地域を増やすことにより被害軽減につなげる事が出来た。 ・鳥獣被害対策研修会も適時研修テーマを設定しながら、継続的に開催するなどソフト面の支援も充実されているところである。今後も継続した取り組みをお願いしたい。
		R4	イノシシ アライグマ タヌキ カラス ドバト ヒヨドリ カモ スズメ	鳥獣被害防止総合対策交付金 イノシシ用箱ワナ ワイヤーメッシュ柵 電気柵	20台 — 5,416m 1回 30人	佐賀市鳥 獣害 対策協 議会	R5.3 R5.3 R5.3	100	【侵入防止柵設置に伴う被害額及び被害面積推移】 被害金額:3,749千円(令和4年度 令和元年度比で13,625千円の減少) 年次推移 令和2年度:11,498千円 令和3年度:12,650千円 増加傾向にあった被害金額が、令和4年度は大幅に減少した。 被害面積:2.1ha(令和4年度 平成元年度比で11.4haの減少) 年次推移 令和2年度:11.4ha 令和3年度:10.4ha	1,249	2,948	-445%	1.25	2.91	-435%	捕獲頭数は年々増加していることから、イノシシの個体数は年々増加傾向にあると考えられる。今後も箱わなの導入や捕獲技術向上のための研修会を開催するなどの対策が求められる。	農作物被害を減らすには、単に頭数や捕獲従事者の数を増やすのではなく、農作物を加害する集落や農地周辺に生息するイノシシを捕獲することが重要である。農作物加害イノシシについては、県とも連携しながら、有害捕獲従事者の捕獲技術向上や高度な捕獲技術を有する人材育成を進め、加害個体捕獲による被害軽減を進めていただきたい。 ・柵の設置が進んでいる地区では、柵の維持管理徹底で、農作物被害は大きく減らすことができるため、被害金額の大きい集落や地域を中心に、支援を重点化しながら、柵がしっかり機能するよう農家への指導、支援を進めていただきたい。
神崎市鳥獣被害防止対策協議会	神崎市	R2-R4	イノシシ	大型獣用箱わな整備 wm柵	R2 5基 R3 1基 R4 2基 450m	神崎市鳥 獣被害 防止対 策協 議会	100%	令和2~4年度にかけて、計8基の大型獣用箱わなを整備し、猟友会員へ貸し出すことで捕獲圧をたかめることができた。捕獲頭数も令和元年460頭、令和2年589頭、令和3年度598頭、令和4年1,067頭と年度によって上下はあるが、全体的に増加傾向にある。特に令和4年度は県全体でイノシシの捕獲数が急上昇しており、本市でもわな猟による捕獲や、wm柵設置によるイノシシの侵入防止により、農作物被害の軽減に努めることができた。	1,249	2,948	-445%	1.25	2.91	-435%	捕獲頭数は年々増加していることから、イノシシの個体数は年々増加傾向にあると考えられる。現在のところ農作物の被害報告はまだ少ない状態ではあるが、農家被害等、生活環境に影響を及ぼしている。イノシシ同様、捕獲頭数をさらに増加させる対策が必要である。	柵の設置がある程度完了し、捕獲対策を重点的に取り組まれているものの、被害金額及び面積の目標達成には至っていない。 侵入防止柵の維持管理に関する指導や研修会の実施等、地域で被害防止に取り組めるよう推進していただきたい。	
		R2-R4	アライグマ	小型獣用箱わな整備	R2 1基 R3 6基 R4 4基	神崎市鳥 獣被害 防止対 策協 議会	100%	令和2~4年度にかけて、計11基の小型獣用箱わなを整備し、猟友会員へ貸し出すことで捕獲圧をたかめることができた。捕獲頭数も令和元年200頭、令和2年140頭、令和3年度113頭、令和4年117頭と、捕獲頭数は年々大きく増加している。	565	523	130%	1.01	0.19	428%	イノシシ・アライグマの捕獲頭数が増加傾向にあることから、個体数も増加傾向にあると考えられる。 捕獲従事者の育成・確保が引き続き必要である。 町内のワイヤーメッシュ柵の設置についても、完了しているため、今後はワイヤーメッシュ設置後のイノシシ等の生息域・行動範囲の変化を調査し、ソフト事業を活用し、被害軽減を推進していく。	・被害金額、面積ともに目標を達成し、事業効果が確認できる。 ・ワイヤーメッシュ柵の設置に目途がついているが、柵設置後の維持管理が重要となり維持管理の徹底で、被害は大きく減らすことができる。被害金額の大きい集落や地域を中心に、支援を重点化しながら、柵がしっかり機能するよう農家への指導、支援を進めていただきたい。	
吉野ヶ里町鳥獣被害対策協議会	吉野ヶ里町	R2-R4	イノシシ	大型獣用箱罟導入	R2 3基 120,000円(税込) R3 3基 126,000円(税込) R4 2基 84,000円(税込)	吉野ヶ里町 鳥獣害 対策協 議会	R2.12 R3.12 R5.2	100%	令和2年度~令和4年度にかけて、合計8基の大型獣用箱罟を整備し、猟友会に貸し出すことにより、捕獲の強化を図った。令和2年度のイノシシ捕獲頭数は173頭、令和3年度は150頭、令和4年度は198頭と、年によって捕獲数の上下はあるが、整備前(H29-R1)と比べて捕獲平均値は高くなっている。(H29-R1:平均157頭、R2-R4:平均183頭) 平成27年度までに整備対象となる区域についてはおおよそワイヤーメッシュ柵を設置し、イノシシの侵入を軽減できているが、設置したワイヤーメッシュ柵沿いにはイノシシの行動範囲が広がっており、今後はワイヤーメッシュ柵の効果を増加させるために、維持管理を徹底して行い、設置した柵の周辺に大型獣用箱罟を設置し、さらなる被害の減少を目指す。	565	523	130%	1.01	0.19	428%	イノシシ・アライグマの捕獲頭数が増加傾向にあることから、個体数も増加傾向にあると考えられる。 捕獲従事者の育成・確保が引き続き必要である。 町内のワイヤーメッシュ柵の設置についても、完了しているため、今後はワイヤーメッシュ設置後のイノシシ等の生息域・行動範囲の変化を調査し、ソフト事業を活用し、被害軽減を推進していく。	・被害金額、面積ともに目標を達成し、事業効果が確認できる。 ・ワイヤーメッシュ柵の設置に目途がついているが、柵設置後の維持管理が重要となり維持管理の徹底で、被害は大きく減らすことができる。被害金額の大きい集落や地域を中心に、支援を重点化しながら、柵がしっかり機能するよう農家への指導、支援を進めていただきたい。
		R2	アライグマ	小動物用箱罟導入	R2 3基 52,800円(税込)	吉野ヶ里町 鳥獣害 対策協 議会	R2.11	100%	令和2年度は3基の小動物用箱罟を整備し、猟友会等に貸し出しを行い、捕獲の強化を図った。アライグマ捕獲頭数は令和2年度64頭、令和3年度34頭、令和4年度61頭と、年によって捕獲数の上下はあるが、整備前(H29-R1)と比べて捕獲平均値は高くなっている。(H29-R1:平均54頭、R2-R4:平均58頭) 老朽化が著しい小動物用罟も複数あるため、今後は罟の買い替えを行い、捕獲の強化を目指す。	565	523	130%	1.01	0.19	428%	・急増しているアライグマの被害対策については捕獲対策が重要であるため、捕獲従事者の人材育成と併せ、捕獲圧の強化を進めていただきたい。	ワイヤーメッシュ柵の設置に目途がつき、捕獲対策を重点的に支援されている。被害金額、被害面積ともに目標達成できていることから、事業効果も確認できる。 捕獲従事者の確保や設置したワイヤーメッシュ柵の維持管理等、今後も継続した取り組みをお願いしたい。

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
多小久城地域有害鳥獣広域駆除対策協議会	多小久市	R2	イノシシ	箱ワナ導入 ワイヤーメッシュ柵	6基 8,292m	多小久城 地域有害 鳥獣広域 駆除対策 協議会	令和3年3月	100%	R4年度のイノシシ捕獲頭数は2,121頭で、R2年度に比べて775頭増加しているが、R2年度に比べR4年度のイノシシの被害面積は2,79ha増加し6,93ha、被害金額は4,659千円増加し、8,241千円となった。中型哺乳類については、R4年度の捕獲頭数は472頭で、R2年度に比べ155頭の増加、被害面積については0.16ha減少し0.1ha、被害金額についてはR2年度に比べ、19千円減少し、387千円となった。	12,627	33,755	-290%	14,65	29,30	-133%			
			アナグマ アライグマ	箱ワナ導入	20基		—	—										
			イノシシ	個体数調整	1,346頭		—	—										
			アナグマ	個体数調整	129頭		—	—										
			アライグマ	個体数調整	188頭		—	—										
			ニホンザル	個体数調整	1頭		—	—										
			カラス	個体数調整	122羽		—	—										
			ドバト	個体数調整	0羽		—	—										
			カモ	個体数調整	0羽		—	—										
		R3	イノシシ	箱ワナ導入 ワイヤーメッシュ柵	10基 13,221m		令和4年3月	100%										
			イノシシ	個体数調整	1,552頭		—	—										
			アナグマ	個体数調整	160頭		—	—										
			アライグマ	個体数調整	201頭		—	—										
			ニホンザル	個体数調整	1頭		—	—										
			カラス	個体数調整	125羽		—	—										
			ドバト	個体数調整	0羽		—	—										
			カモ	個体数調整	0羽		—	—										
			カワウ	個体数調整	2羽		—	—										
	R4	イノシシ	箱ワナ導入 ワイヤーメッシュ柵 電気牧柵	10基 11,280m 4,850m 16台	令和5年3月	100%												
		イノシシ	個体数調整	2,121頭	—	—												
		アナグマ	個体数調整	250頭	—	—												
		アライグマ	個体数調整	222頭	—	—												
		ニホンザル	個体数調整	0頭	—	—												
		カラス	個体数調整	134羽	—	—												
		ドバト	個体数調整	7羽	—	—												
		カモ	個体数調整	19羽	—	—												
		イノシシ	箱ワナ導入 ワイヤーメッシュ柵	6基 4,799m	令和3年3月	100%												
小小久市	R2	アナグマ アライグマ	箱ワナ導入	20基	—	—												
		イノシシ	個体数調整	781頭	—	—												
		アナグマ	個体数調整	54頭	—	—												
		アライグマ	個体数調整	128頭	—	—												
		タヌキ	個体数調整	15頭	—	—												
		カラス	個体数調整	25羽	—	—												
		ドバト	個体数調整	0羽	—	—												
		カモ	個体数調整	0羽	—	—												
		R3	イノシシ	箱ワナ導入 ワイヤーメッシュ柵	10基 2,602m	令和4年3月	100%											
	イノシシ		個体数調整	808頭	—	—												
	アナグマ		個体数調整	48頭	—	—												
	アライグマ		個体数調整	78頭	—	—												
	タヌキ		個体数調整	21頭	—	—												
	カラス		個体数調整	12羽	—	—												
	ドバト		個体数調整	0羽	—	—												
	カモ		個体数調整	22羽	—	—												
	R4		イノシシ	箱ワナ導入 ワイヤーメッシュ柵	7基 4,462m	令和5年3月	100%											
		イノシシ	個体数調整	1,126頭	—	—												
アナグマ		個体数調整	71頭	—	—													
アライグマ		個体数調整	105頭	—	—													
タヌキ		個体数調整	25頭	—	—													
カラス		個体数調整	10羽	—	—													
ドバト		個体数調整	0羽	—	—													
カモ		個体数調整	93羽	—	—													

イノシシ被害は侵入防止柵の設置・箱ワナ導入・緊急捕獲事業に取り組んで捕獲頭数も増えているが被害は増加している。侵入防止柵を設置した圃場の被害は減少したが侵入防止柵を設置していない圃場への被害が増えたので被害が増加した。今後も侵入防止柵の整備を進めるとともに捕獲頭数を維持することにより被害額が減少すると思われる。中型鳥獣については小城市では捕獲数は増加しているものの今まで被害のなかった圃場の被害が増えたり被害が増加した。多小久市では捕獲数増加に伴い、被害は減ってきており効果が出てきている。年々捕獲従事者を減少傾向となっているため、捕獲者を増加する取組が必要となっている。ニホンザルについては、受信機の導入により生息域が的確に把握できるようになり、銃器・花火等による追い払いの対策を的確な情報により実施し被害はあっていない。

柵の設置ならびに維持管理徹底で、農作物被害は大きく減らすことができる。柵の設置が進んでいない地区での設置推進だけでなく、既設の地区においても柵の効果がしっかり機能するよう、支援を重点化しながら、被害減少につながる指導を進めていきたい。

侵入防止柵の導入や捕獲対策にも積極的に取り組んでいただいているが、被害は低減には至らず、目標未達成となっている。ワイヤーメッシュ柵の未設置地域には設置を推進するとともに、設置後の管理についても指導していただきたい。中型哺乳類の被害についても、今一度対策を見直し、侵入防止や捕獲にも継続して取り組むとともに、棲み分け対策についてもバランスよく取り組むよう推進していただきたい。

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価									
										被害金額			被害面積														
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率												
鳥栖三養基有害鳥獣広域駆除対策協議会	鳥栖市 基山町 みやき町 上峰町	R2	イノシシ	侵入防止施設整備 (ワイヤーメッシュ柵)	1,370.68 0円 (2,086 m)	受益者	令和3年 3月	100%	・令和元年度に整備したワイヤーメッシュ柵2,956mで不足した箇所を補充する形で整備した。 ・ワイヤーメッシュ柵を整備することで、農地へのイノシシ侵入を防止、過去導入した箱罠を併設することで、エサ場を求めイノシシを箱罠へ誘因させ、捕獲効率の向上を図ることができた。	1,286	318	275%	1.21	0.35	262%	・昨年度に続いてワイヤーメッシュ柵を整備したことにより、被害実績の減少に結びついていると思われる。 ・被害金額、面積ともに目標を達成し、事業効果が確認できる。 ・イノシシの捕獲効率向上を図るには、現在実施されている有害捕獲について、捕獲従事者や猟具(わな設置場所)ごとの捕獲率を整理し分析する必要がある。これらデータを協議会で回収、必要に応じて捕獲従事者への聞き取りなどもしながら整理いただき、必要に応じて県とも連携しながら分析を進め、是非とも捕獲率の向上を実現していただきたい。	侵入防止柵については、未整備であった地域に侵入防止柵を整備することで被害金額及び面積ともに目標を達成しており、事業効果が確認できている。引き続き被害低減につながるよう、継続して取り組んでいただきたい。										
			イノシシ アライグマ	箱わな導入 小型獣用6基 大型獣用13基	412.610 円	協議会	令和3年 3月	100%	・捕獲頭数の増加に伴い箱わなの需要が高まったため、台数を整備した。																		
			イノシシ アライグマ	緊急捕獲事業 イノシシ成獣 606頭 イノシシ幼獣 254頭 アライグマ 146頭	4,704.00 0円	-	令和2年 4月	-	イノシシによる被害が大きかったが継続した捕獲を行ってきた結果、個体数が減少し、被害額を大幅に減少できた。																		
		R3	イノシシ	侵入防止施設整備 (ワイヤーメッシュ柵)	1,269.54 3円 (1,460m)	受益者	令和4年 3月	100%	・前年度に整備したワイヤーメッシュ柵2,086mで不足した箇所を補充する形で整備した。 ・ワイヤーメッシュ柵を整備することで、農地へのイノシシ侵入を防止、過去導入した箱罠を併設することで、エサ場を求めイノシシを箱罠へ誘因させ、捕獲効率の向上を図ることができた。																		
			イノシシ アライグマ	箱わな導入 小型獣用16基 大型獣用19基	662.035 円	協議会	令和4年 3月	100%	・捕獲頭数の増加に伴い箱わなの需要が高まったため、台数を整備した。																		
			イノシシ アライグマ	緊急捕獲事業 イノシシ成獣 895頭 イノシシ幼獣 128頭 アライグマ 125頭	6,624.00 0円	-	令和3年 4月	-	・イノシシの捕獲について、昨年度よりも捕獲数を増やし、1,023頭の捕獲実績となった。																		
		R4	イノシシ	侵入防止施設整備 (ワイヤーメッシュ柵)	2,939.97 0円 (3,020 m)	受益者	令和5年 3月	100%	・前年度に整備したワイヤーメッシュ柵1,460mで不足した箇所を補充する形で整備した。 ・ワイヤーメッシュ柵を整備することで、農地へのイノシシ侵入を防止、過去導入した箱罠を併設することで、エサ場を求めイノシシを箱罠へ誘因させ、捕獲効率の向上を図ることができた。																		
			イノシシ アライグマ	箱わな導入 小型獣用13基 大型獣用7基 くくり罠16基	345.325 円	協議会	令和5年 3月	100%	・捕獲頭数の増加に伴い箱わなの需要が高まったため、台数を整備した。																		
			イノシシ アライグマ	緊急捕獲事業 イノシシ成獣 1244頭 イノシシ幼獣 273頭 アライグマ 175頭	9,194.00 0円	-	令和4年 4月	-	・イノシシの捕獲について、過去最大の捕獲頭数実績の1,517頭となった。																		
		唐津市	R2	イノシシ・アナグマ・タヌキ・アライグマ・サル・カラス	テレメトリー調査及び捕獲活動	通年	-	-	-									-	イノシシや中型獣類の被害防止対策としては、中山間地域における集落と山の境界で、水稲や白菜等の野菜の被害が多発していたことから、緊急捕獲活動支援事業を活用し山中において有害捕獲を行うとともに、集落を囲うように侵入防止柵の設置を行い、進入路となる河川や山際に箱ワナを設置し効果的な捕獲を実施した。この取組により、イノシシの捕獲頭数が増加した。サルは被害防止対策としては、テレメトリー調査による位置情報の発信により、地域農家による追い払いを行いつつ、AIゲート等の大型捕獲わなによる捕獲を実施した。この取組でサルの群れの行動を監視し、個体数を減少させることにより被害減少の効果が見込まれる。	42,662	70,899	-496%	30.33	49.73	-476%	唐津市及び玄海町において、被害の大部分を占めるイノシシの捕獲頭数は増加したが、被害額は減少せずに目標は達成できなかった。要因としては、繰り返し農作物被害を引き起こしている加害個体を捕獲できていない不明であり、今後は必要に応じて中型獣類も含め加害個体の特定調査を行い、加害個体を集中的に捕獲する必要がある。また、防護柵の整備及び維持管理を充実させ、捕獲活動と併せた被害防止対策の強化により被害低減に努めたい。	捕獲対策の強化により捕獲頭数は増加しているものの、被害金額及び面積の目標は達成に至っていない。被害が生じている圃場の侵入防止柵設置を推進するとともに、柵設置後の管理についても指導していただきたい。 サル対策については、ICTを活用した生息実態調査に取り組みなど、県内のモデル協議会となっており、今後も、継続して取り組んでいただきたい。
					鷹匠による追い払い・駆除実証事業	10回	-	-	-																		
					捕獲活動	通年	令和3年3月	-	-																		
追い払い活動	通年				令和3年3月	-	-																				
電気柵	62台(15.7km)				協議会	令和3年3月	100%																				
ワイヤーメッシュ柵	16,579m				協議会	令和3年3月	100%																				
電気ネット柵	2台(400m)			協議会	令和3年3月	100%																					
イノシシ	7,020頭			-	-	-																					
サル	28頭			-	-	-																					
アナグマ	139頭			-	-	-																					
タヌキ	42頭			-	-	-																					
アライグマ	204頭			-	-	-																					
鳥類	65羽		-	-	-																						
R3	イノシシ・アナグマ・タヌキ・アライグマ・サル・カラス		テレメトリー調査及び捕獲活動	通年	-	-	-	-																			
			鷹匠による追い払い・駆除実証事業	年10回	-	-	-																				
			イノシシ用箱わな導入	85基	協議会	令和4年3月	100%																				
			中型獣用箱わな導入	6基	協議会	令和4年3月	100%																				
			小型獣用箱わな導入	26基	協議会	令和4年3月	100%																				
			くくりわな導入	17基	協議会	令和4年3月	100%																				
	電気柵		183台(57km)	協議会	令和4年3月	100%																					
	ワイヤーメッシュ柵		21,402m	協議会	令和4年3月	100%																					
	電気ネット柵		3台(900m)	協議会	令和4年3月	100%																					
	イノシシ		6,793頭	-	-	-																					
	サル		37頭	-	-	-																					
	アナグマ	107頭	-	-	-																						
タヌキ	39頭	-	-	-																							
アライグマ	239頭	-	-	-																							
鳥類	29羽	-	-	-																							
R4	イノシシ・アナグマ・タヌキ・アライグマ・サル・カラス	テレメトリー調査及び捕獲活動	通年	-	-	-	-																				
		鷹匠による追い払い・駆除実証事業	8回	-	-	-																					
		イノシシ用箱わな導入	15基	協議会	令和5年3月	100%																					
		中型獣用箱わな導入	8基	協議会	令和5年3月	100%																					
		小型獣用箱わな導入	26基	協議会	令和5年3月	100%																					
		くくりわな導入	17基	協議会	令和5年3月	100%																					
	電気柵	180台(53km)	協議会	令和5年3月	100%																						
	ワイヤーメッシュ柵	16,610m	協議会	令和5年3月	100%																						
	電気ネット柵	3台(1,170m)	協議会	令和5年3月	100%																						
	大型獣用箱わな導入	26基	協議会	令和5年3月	100%																						
	中型獣用箱わな導入	2基	協議会	令和5年3月	100%																						
	小型獣用箱わな導入	4基	協議会	令和5年3月	100%																						
捕獲檻	1基	協議会	令和5年3月	100%																							
イノシシ	6,505頭	-	-	-																							
サル	70頭	-	-	-																							
アナグマ	147頭	-	-	-																							
タヌキ	57頭	-	-	-																							
アライグマ	336頭	-	-	-																							
鳥類	47羽	-	-	-																							
玄海町	R2	イノシシ	電気柵	7台(1,640m)	協議会	令和3年3月	100%																				
		イノシシ	507頭	-	-	-																					
		アナグマ タヌキ アライグマ	有害捕獲 16頭 8頭 34頭	-	-	-																					
	R3	イノシシ	イノシシ用箱わな導入 くくりわな導入 電気柵 ワイヤーメッシュ柵	15基 8基 19台(4.3km) 560m	協議会	令和4年3月 令和4年3月 令和4年3月 令和4年3月	100%																				
		イノシシ アナグマ タヌキ アライグマ 鳥類	有害捕獲 554頭 3頭 1頭 30頭 6羽	-	-	-																					
		イノシシ	電気柵	26台(6.76km)	協議会	令和5年3月 令和5年3月	100%																				
	R4	アナグマ・タヌキ・アライグマ	小型獣用箱わな導入	2基	協議会	令和5年3月	100%																				
		イノシシ アナグマ タヌキ アライグマ	有害捕獲 689頭 11頭 8頭 45頭	-	-	-																					

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価													
										被害金額			被害面積																		
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率																
伊万里市 伊万里有田地区 有害鳥獣対策協議会	R2	イノシシ・サル・アライグマ・アナグマ・タヌキ	大型獣用箱わなの購入	40基	伊万里有田地区有害鳥獣対策協議会	令和3年3月	100%	箱わなを導入し伊万里市猟友会に貸与することで、有害鳥獣の捕獲による個体数の調整を行うとともに、電気柵、ワイヤーメッシュ柵の整備し、有害鳥獣の農地への侵入を防いだが、イノシシの個体数の増加もあって、令和元年度に比べ令和2年度の農業被害金額は、17,674千円から20,732千円へ増加した。	17,090	23,039	19%	11,28	16,27	-3%	イノシシ箱罠等の捕獲罠の導入、侵入防止柵等の設置などを行っているが、協議会全体で被害金額は増加傾向にあり、捕獲頭数についてイノシシは約4,000頭前後で推移し、アライグマは増加傾向にある。猟友会が高齢化しているため、若手の担い手を確保するなど、引き続き捕獲対策等にも注力する必要がある。	・柵の設置ならびに柵の維持管理徹底で、イノシシ被害を減らすことができるため、被害金額の大きい集落や地域を中心に、支援を重点化しながら、柵がしっかり機能するよう、農家への指導、支援を進めていただきたい。	・侵入防止柵の設置や捕獲の強化などの対策がなされているものの、被害金額及び面積の目標達成には至っていない。被害が生じている圃場の侵入防止柵設置を推進するとともに、柵設置後の管理についても指導していただきたい。														
				7,144m/12畝		令和2年10月	100%																								
				10,140m		令和2年10月	100%																								
				4,243頭		-																									
				398頭		-																									
				124頭		-																									
				60頭		-																									
				880羽		-																									
				R3		イノシシ・サル・アライグマ・アナグマ・タヌキ	大型獣用箱わなの購入											40基	伊万里有田地区有害鳥獣対策協議会	令和4年3月	100%	箱わなを導入し伊万里市猟友会に貸与することで、有害鳥獣の捕獲による個体数の調整を行い、有害鳥獣の農地への侵入を防ぐ様み分け対策を行った結果、令和2年度に比べ令和3年度の農業被害金額は、20,732千円から18,526千円へ減少した。	17,090	23,039	19%	11,28	16,27	-3%	イノシシ箱罠等の捕獲罠の導入、侵入防止柵等の設置などを行っているが、協議会全体で被害金額は増加傾向にあり、捕獲頭数についてイノシシは約4,000頭前後で推移し、アライグマは増加傾向にある。猟友会が高齢化しているため、若手の担い手を確保するなど、引き続き捕獲対策等にも注力する必要がある。	・柵の設置ならびに柵の維持管理徹底で、イノシシ被害を減らすことができるため、被害金額の大きい集落や地域を中心に、支援を重点化しながら、柵がしっかり機能するよう、農家への指導、支援を進めていただきたい。	・侵入防止柵の設置や捕獲の強化などの対策がなされているものの、被害金額及び面積の目標達成には至っていない。被害が生じている圃場の侵入防止柵設置を推進するとともに、柵設置後の管理についても指導していただきたい。
																		14,200m/22畝		令和3年11月	100%										
																		23,020m		令和3年11月	100%										
																		4,249頭		-											
																		522頭		-											
																		131頭		-											
	122頭	-																													
	2頭	-																													
	1頭	-																													
	951羽	-																													
	R4	イノシシ・サル・アライグマ・アナグマ・タヌキ	大型獣用箱わなの購入	40基	伊万里有田地区有害鳥獣対策協議会	令和5年3月	100%	箱わなを導入し伊万里市猟友会に貸与することで、有害鳥獣の捕獲による個体数の調整を行うとともに、電気柵、ワイヤーメッシュ柵の整備することで、有害鳥獣の農地への侵入を防ぐことにより、令和3年度に比べ令和4年度の農業被害金額は、18,526千円から17,667千円へ減少した。	17,090	23,039	19%	11,28	16,27	-3%	イノシシ箱罠等の捕獲罠の導入、侵入防止柵等の設置などを行っているが、協議会全体で被害金額は増加傾向にあり、捕獲頭数についてイノシシは約4,000頭前後で推移し、アライグマは増加傾向にある。猟友会が高齢化しているため、若手の担い手を確保するなど、引き続き捕獲対策等にも注力する必要がある。	・柵の設置ならびに柵の維持管理徹底で、イノシシ被害を減らすことができるため、被害金額の大きい集落や地域を中心に、支援を重点化しながら、柵がしっかり機能するよう、農家への指導、支援を進めていただきたい。	・侵入防止柵の設置や捕獲の強化などの対策がなされているものの、被害金額及び面積の目標達成には至っていない。被害が生じている圃場の侵入防止柵設置を推進するとともに、柵設置後の管理についても指導していただきたい。														
				12,280m/11畝		令和4年8月	100%																								
				23,510m		令和4年8月	100%																								
				3,651頭		-																									
				470頭		-																									
				144頭		-																									
				128頭		-																									
				2頭		-																									
				1,009羽		-																									
				R2		イノシシ・サル・アライグマ・アナグマ・タヌキ・キツネ・カラス類	大型獣用箱わなの購入											8基	伊万里有田地区有害鳥獣対策協議会	令和3年3月	100%	箱わな及び、ワイヤーメッシュ柵の整備を行い、令和元年度に比べ令和2年度の農業被害金額は、5,881千円から6,805千円へ増額となったが整備したことで最小限に抑えることができた。	17,090	23,039	19%	11,28	16,27	-3%	イノシシ箱罠等の捕獲罠の導入、侵入防止柵等の設置などを行っているが、協議会全体で被害金額は増加傾向にあり、捕獲頭数についてイノシシは約4,000頭前後で推移し、アライグマは増加傾向にある。猟友会が高齢化しているため、若手の担い手を確保するなど、引き続き捕獲対策等にも注力する必要がある。	・柵の設置ならびに柵の維持管理徹底で、イノシシ被害を減らすことができるため、被害金額の大きい集落や地域を中心に、支援を重点化しながら、柵がしっかり機能するよう、農家への指導、支援を進めていただきたい。	・侵入防止柵の設置や捕獲の強化などの対策がなされているものの、被害金額及び面積の目標達成には至っていない。被害が生じている圃場の侵入防止柵設置を推進するとともに、柵設置後の管理についても指導していただきたい。
841m/2畝																		令和2年10月		100%											
2,310m																		令和2年10月		100%											
861頭																		捕獲数は増加した (R1 615頭)													
173頭																		捕獲数は減少した (R1 256頭)													
42頭	捕獲数は減少した (R1 73頭)																														
27頭	捕獲数は増加した (R1 17頭)																														
1頭	捕獲数は減少した (R1 9頭)																														
18羽	捕獲数は増加した (R1 13羽)																														
R3	イノシシ・サル・アライグマ・アナグマ・タヌキ	大型獣用箱わなの購入	8基		伊万里有田地区有害鳥獣対策協議会			令和4年3月	100%	箱わなを導入し猟友会有田支部に貸与することで、有害鳥獣の捕獲による個体数の調整を行い、有害鳥獣の農地への侵入を防ぐ様み分け対策を行った結果、令和2年度に比べ令和3年度の農業被害金額は、6,805千円から5,415千円へ減少した。	17,090	23,039	19%	11,28	16,27	-3%	イノシシ箱罠等の捕獲罠の導入、侵入防止柵等の設置などを行っているが、協議会全体で被害金額は増加傾向にあり、捕獲頭数についてイノシシは約4,000頭前後で推移し、アライグマは増加傾向にある。猟友会が高齢化しているため、若手の担い手を確保するなど、引き続き捕獲対策等にも注力する必要がある。	・柵の設置ならびに柵の維持管理徹底で、イノシシ被害を減らすことができるため、被害金額の大きい集落や地域を中心に、支援を重点化しながら、柵がしっかり機能するよう、農家への指導、支援を進めていただきたい。		・侵入防止柵の設置や捕獲の強化などの対策がなされているものの、被害金額及び面積の目標達成には至っていない。被害が生じている圃場の侵入防止柵設置を推進するとともに、柵設置後の管理についても指導していただきたい。											
			4基					令和4年3月	100%																						
		ワイヤーメッシュ柵	2,290m					令和3年11月	100%																						
		イノシシ	個体数調整					868頭	捕獲数は減少した (R2 913頭)																						
		アライグマ	個体数調整					137頭	捕獲数は減少した (R2 186頭)																						
		アナグマ	個体数調整	42頭		捕獲数は減少した (R2 50頭)																									
		タヌキ	個体数調整	38頭		捕獲数は増加した (R2 34頭)																									
		キツネ	個体数調整	1頭		捕獲数は変わらない (R2 1頭)																									
		カラス等	個体数調整	8羽		捕獲数は減少した (R2 19羽)																									
		R4	イノシシ・サル・アライグマ・アナグマ・タヌキ	大型獣用箱わなの購入		8基	伊万里有田地区有害鳥獣対策協議会	令和5年3月	100%										箱わなを導入し猟友会有田支部に貸与することで、有害鳥獣の捕獲による個体数の調整を行い、有害鳥獣の農地への侵入を防ぐ様み分け対策を行った結果、令和3年度に比べ令和4年度の農業被害金額は、5,415千円から5,372千円へ減少した。		17,090	23,039	19%	11,28	16,27	-3%	イノシシ箱罠等の捕獲罠の導入、侵入防止柵等の設置などを行っているが、協議会全体で被害金額は増加傾向にあり、捕獲頭数についてイノシシは約4,000頭前後で推移し、アライグマは増加傾向にある。猟友会が高齢化しているため、若手の担い手を確保するなど、引き続き捕獲対策等にも注力する必要がある。	・柵の設置ならびに柵の維持管理徹底で、イノシシ被害を減らすことができるため、被害金額の大きい集落や地域を中心に、支援を重点化しながら、柵がしっかり機能するよう、農家への指導、支援を進めていただきたい。	・侵入防止柵の設置や捕獲の強化などの対策がなされているものの、被害金額及び面積の目標達成には至っていない。被害が生じている圃場の侵入防止柵設置を推進するとともに、柵設置後の管理についても指導していただきたい。		
						6,700m/3畝		令和4年8月	100%																						
				ワイヤーメッシュ柵		2,890m		令和4年8月	100%																						
				イノシシ		個体数調整		691頭	捕獲数が減少した。(R3 781頭)																						
				アライグマ		個体数調整		162頭	捕獲数が増加した(R3 101頭)																						
アナグマ	個体数調整			39頭	捕獲数が増加した (R3 35頭)																										
タヌキ	個体数調整			46頭	捕獲数が減少した (R3 40頭)																										
キツネ	個体数調整			3頭	捕獲数は変わらない (R3 1頭)																										
カラス等	個体数調整			9羽	捕獲数が増加した (R3 6羽)																										

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
武雄地区有害鳥獣広域駆除対策協議会	武雄市	R2		免許取得補助 センサーカメラ イノシシ用箱わな アライグマ用箱わな ワイヤーメッシュ柵 電気柵 イノシシ個体調整 アライグマ個体調整	4名 3台 19基 5基 3,980m 10セット 4,400m 2,022頭 395頭	武雄地区有害鳥獣広域駆除対策協議会	1月 2月 3月 3月 12月 12月 4月 4月	100%	・集落と山の境界で、イノシシによる米、麦、大豆等の被害が多発していたことから、緊急捕獲活動支援事業を活用し山中において猟友会が有害捕獲を行うとともに、集落を囲うように山際に侵入防止柵を設置。イノシシの動態調査を目的として、センサーカメラを導入した。 しかしながら武雄市における鳥獣による農作物被害額は115.8%増加。イノシシの有害捕獲頭数は16.7%増加し、アライグマの有害捕獲頭数は85.4%増加した。 ※施設整備前の令和元年度 被害額：1,891千円 有害捕獲頭数：イノシシ 1,733頭、アライグマ 213頭 整備後の令和2年度（令和3年3月に竣工） 被害額：4,081千円 有害捕獲頭数：イノシシ 2,022頭、アライグマ 395頭	1,107	4,337	-581%	1,365	5.21	-557%	・箱わなを貸与することで捕獲従事者の金銭的負担を軽減し、捕獲意欲を高めることができた。また免許取得に係る補助をしたことにより、新たな従事者を確保できた。 ・イノシシ等に被害を受けていた農地も侵入防止柵の設置によって被害を防ぐことができ、箱わなの設置と併せて、効率的に有害捕獲活動ができた。 ・イノシシの捕獲頭数は年々増加しているものの、被害は依然として後を絶たず、農地に入らない個体をどうやって捕獲するかが大きな課題となっている。 ・アライグマ、アナグマの捕獲頭数が増加傾向にあるが被害額としては出ていない。 ・計画策定時は、H30年の実績値に対し実現可能な計画として目標値を設定したが、令和元年、3年の2回の水害により防止施設に被害が生じたことで、イノシシの侵入が増加した。並行してイノシシの頭数も増えていると推定されるなどの理由により、目標値には達成していない。 ・今後も引き続き防止施設の整備及び維持管理を行うとともに、保冷库の導入により捕獲者の手数料軽減につなげ、捕獲意欲を高めていく。	・計画策定時には想定されなかった気象災害（水害）発生による被害防止施設の損壊と、その復旧に時間を要したことによる、やむを得ない要因で目標が達成できなかったと考えられる。 ・水害ならびにイノシシ被害を受けた農家の耕作意欲が失われないうち、すみやかに復旧支援を進められるとともに、箱わなで捕獲できない加害個体を捕獲できる捕獲技術向上や高度な捕獲技術を有する人材育成については県とも連携しながら進め、被害防止目標の達成を図っていただきたい。	大雨に伴う土砂崩れや河川の氾濫、水田の浸水により、侵入防止柵の損壊や流出が発生しており、その復旧に時間を要したことで、被害金額及び面積の目標達成が困難となっている。 侵入防止柵の整備及び捕獲の強化を引き続き推進し、被害の拡大防止に努めていただきたい。
		R3	免許取得補助 イノシシ用箱わな 小動物用箱わな ワイヤーメッシュ柵 電気柵 イノシシ個体調整 アライグマ個体調整 アナグマ個体調整	2名 6基 23基 6,900m 29セット 14,100m 2,219頭 320頭 78頭	1月 3月 3月 12月 1月 4月 4月 4月		・集落と山の境界で、イノシシによる米、麦、大豆等の被害が多発していたことから、緊急捕獲活動支援事業を活用し山中において猟友会が有害捕獲を行うとともに、集落を囲うように山際に侵入防止柵を設置。これらの取組により武雄市における鳥獣による農作物被害額は5.7%減少。イノシシの有害捕獲頭数は9.7%増加し、アライグマの有害捕獲頭数は19%減少した。また令和3年度よりアナグマも対象獣に追加し、78頭捕獲している。 整備後の令和3年度（令和4年2月に竣工） 被害額：3,849千円 有害捕獲頭数：イノシシ 2,219頭、アライグマ 320頭、アナグマ 78頭											
		R4	免許取得補助 イノシシ用箱わな 小動物用箱わな ワイヤーメッシュ柵 電気柵 イノシシ個体調整 アライグマ個体調整 アナグマ個体調整	6名 18基 5基 9,250m 14セット 7,700m 2,509頭 294頭 178頭	1月 3月 3月 11月 11月 4月 4月 4月		・集落と山の境界で、イノシシによる米、麦、大豆等の被害が多発していたことから、緊急捕獲活動支援事業を活用し山中において猟友会が有害捕獲を行うとともに、集落を囲うように山際に侵入防止柵を設置。これら取組により武雄市における鳥獣による農作物被害額は2.4%減少。イノシシの有害捕獲頭数は8.1%減少、アナグマの有害捕獲頭数は128.2%増加。 整備後の令和4年度（令和5年2月に竣工） 被害額：3,758千円 有害捕獲頭数：イノシシ 2,509頭、アライグマ 294頭、アナグマ 178頭											
杵島地区有害鳥獣広域駆除対策	大町町 江北町	R2	イノシシ アライグマ アナグマ	大型獣用箱わなの導入 19基 小型獣用箱わなの導入 10基 電気止め柵の導入 2基	728200	大町町 江北町	R3.3	100%	【鳥獣被害対策（ハード・ソフト）】 山間部では、早期にこの交付金を活用し、鳥獣被害対策として侵入防護柵（ワイヤーメッシュ柵）を既に設置しており、水稲、みかん、野菜等の被害対策としては効果を上げている。 一方で、その反動により中間部及び下部の民家に近い農地にイノシシが出没し被害が及んだことから、本協議会として、中間部及び下部の農地を中心に侵入防護柵（ワイヤーメッシュ柵）の設置を行った。 ※基準年度（平成30年度） ・鳥獣による被害金額：388.9万円 ・鳥獣による被害面積：4.64ha ※実績値（令和4年度） ・鳥獣による被害金額：231.6万円 ・鳥獣による被害面積：1.43ha 上記のように侵入防護柵（ワイヤーメッシュ柵）の設置により、被害金額・被害面積ともに一定の効果を上げていると言える。また、事業のソフト面対策として、箱わなやくくりわなの購入、緩衝帯の整備、カラス、カモの駆除対策等を行ったことも影響していることが想定される。 【有害捕獲等個体数調整】 中間部や民家に近い農地にも被害が及んだことから侵入防護柵の設置と同時に有害鳥獣の捕獲の強化も行った。被害防止計画策定時の平成30年度の捕獲頭数、そして計画最終年（令和4年度）の実績値の捕獲頭数については以下のとおり。主に中間部や民家に近い人里付近にわなをしかけ捕獲対策を行い一定の効果達成した。 ※基準年度（平成30年度） ・イノシシ成獣・幼獣：232頭 ・アライグマ：12頭 ・アナグマ：21頭 ↓ ※実績値（令和4年度） ・イノシシ成獣・幼獣：343頭 ・アライグマ：48頭 ・アナグマ：19頭	従前より取り組んできた捕獲による個体数調整等を行った結果、被害金額・被害面積の目標を達成することができた。 定期的な侵入防止策の見回り活動を実施し、破損している場合、修繕等の対策を行ったことが要因と考えられる。 また、鳥頭による餌しては被害面積・被害額が増加傾向にあるため、更なる対策が必要と考える。ソフト面による対策は、猟友会を中心に被害対策が施されているが、カラス、カモの被害が増大している。特にカラスによる果樹（みかん）の被害の報告を多く受けているので捕獲活動の強化及び新たな対策が必要と考える。	被害金額、面積ともに目標を達成し、事業効果が確認できる。 被害が増えている鳥害については、捕獲だけでなく、テグスや防鳥ネット設置で被害を防ぐことができたため、県の農業振興センターとも連携しながら設置指導を進めること、カモ被害については、被害圏域や時期、カモの飛来や行動範囲などの実態把握を県などとの連携を進め、効果的な対策を検討し実施していただきたい。							
			イノシシ アライグマ アナグマ	狩猟免許講習会参加補助 1名×10,000円	10,000円	大町町 江北町	R3.3											
			イノシシ アライグマ アナグマ	カモの追い払い用器具の補助（黒マルチ、テグス） 麦畑 約28.1ha分	36,600円	大町町 江北町	R2.11	100%										
			イノシシ アライグマ アナグマ	○鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業 大町町 イノシシ 44頭 アライグマ 19頭 アナグマ 1頭 江北町 イノシシ 258頭 アライグマ 19頭 アナグマ 14頭	1,609,000円	大町町 江北町												
		イノシシ アライグマ アナグマ	大型獣用箱わなの導入 17基	781,660円	大町町 江北町	R4.3	100%											
		イノシシ アライグマ アナグマ	緩衝帯の設置	165,000円	大町町 江北町	R4.2												
		イノシシ アライグマ アナグマ	カモの追い払い用器具の補助（黒マルチ、テグス） 麦畑 約130ha分	78,433円	大町町 江北町	R3.11	100%											
		イノシシ アライグマ アナグマ	○鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業 大町町 イノシシ 79頭 アライグマ 1頭 アナグマ 10頭 江北町 イノシシ 123頭 アライグマ 32頭 アナグマ 22頭	1,275,000円	大町町 江北町													
		イノシシ アライグマ アナグマ	小型獣用箱わなの導入 10基 足くりわなの導入 5基 電気止め柵の導入 1基	277,750円	大町町 江北町	R5.3	100%											
		イノシシ アライグマ アナグマ	○鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業 大町町 イノシシ 95頭 アライグマ 23頭 アナグマ 7頭 江北町 イノシシ 248頭 アライグマ 25頭 アナグマ 12頭	1,862,000円	大町町 江北町													

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
佐賀北部地域有害鳥獣広域駆除対策協議会	佐賀市	R2	イノシシ	鳥獣被害防止 緊急捕獲活動支援事業 (鳥獣被害防止総合対策交付金)	1704 頭	佐賀北部 地域有害 鳥獣広域 駆除対策 協議会			イノシシの捕獲頭数は平成30年度の2,733頭から令和4年度には3,941頭となった。アライグマの捕獲頭数は平成30年度の435頭から令和4年度には573頭となった。令和4年度における被害金額は1,450.6万円となり、平成30年に比べ512.1万円減少した。	20,509	14,506	217%	25.08	19.45	190%	各市町鳥獣害対策協議会及び猟友会と連携し、広域的にイノシシ・アライグマの捕獲活動を行った。 イノシシについては、令和4年度は過去最高の捕獲頭数を記録となった。 要因は、個体数の増加や、各市町協議会による箱わな設置台数の増加と駆除隊員の捕獲技術向上などが考えられる。 また、近年、居住区域に出没する頻度が増加していることから、生息域の拡大が推測される。 住民に危害を与える恐れがあるため、捕獲の強化をすることで更なる被害の減少を目指す。 アライグマについても、近年の捕獲頭数は急増しており、目撃情報も多くなっている。 農作物の被害が増加傾向にあるほか、生活環境にも被害を及ぼしている。 特定外来生物でもあるため、今後も積極的な捕獲を行う必要がある。	・被害金額、面積ともに目標を達成し、事業効果が確認できる。 ・イノシシによる農作物被害をゼロにするには、畝数や捕獲従事者数を単に増やすだけではなく、集落や農地周辺に生息する農作物加害イノシシを捕獲することがポイントとなる。農作物加害イノシシの捕獲については、県とも連携しながら、有害捕獲従事者の捕獲技術向上や高度な捕獲技術を有する人材育成を進め、加害個体捕獲による被害軽減を進めていただきたい。	被害金額、面積ともに目標を達成しており、事業効果が確認できる。引き続き捕獲圧を強化していくとともに、侵入防止対策についても注力していただきたい。 中型哺乳類についても引き続き捕獲圧を高め、果樹等の高単価な農作物は侵入防止対策を推進していただきたい。
			アライグマ		247 頭													
	神埼市		イノシシ		589 頭													
			アライグマ		140 頭													
	吉野ヶ里町	イノシシ	173 頭															
		アライグマ	64 頭															
	佐賀市	R3	イノシシ		1663 頭													
			アライグマ		202 頭													
	イノシシ		598 頭															
	アライグマ		113 頭															
	神埼市	R4	イノシシ		150 頭													
			アライグマ		34 頭													
	佐賀市	R4	イノシシ		2713 頭													
			アライグマ		237 頭													
イノシシ	1067 頭																	
アライグマ	117 頭																	
神埼市	R4	イノシシ	198 頭															
		アライグマ	61 頭															
佐賀県	R2		被害対策研修会	佐賀県			県や市町職員等を対象に研修会を開催し、有害鳥獣による被害対策の知識および技術の普及を図ることができた。											
	R3		カモによるノリ被害対策実証 ジビエ普及のための大学のPR活動 イノシシ等捕獲技術習得研修	佐賀県			カモ対策では、カモの飛来数を軽減するために、有効的な捕獲対策の実証や行動を把握するために食性調査を実施することができた。 ジビエ普及については、あまり聞きなじみがない学生に対してジビエの存在から特徴などをPRすることができた。 捕獲技術習得研修では、県及び市町職員が専門家から捕獲技術の知識を習得し、指導者の育成及びレベルアップを図ることができた。						捕獲技術研修は、継続して実施することにより、高度な技術を持った指導者を育成することができ、現場指導の資質向上に直結している。 また、イノシシやカモの被害対策に対しては、ICTの活用や猟友会への捕獲実証委託等を通じて、有効性を実証することができた。 ジビエの普及についても、学生に対して試食会等を通して特徴などをPRすることができている。 今後も、指導員の育成やジビエの普及に力を入れるとともに、カモやICT等、近年のトレンドを意識した対策ができるよう、実証についても実施を継続したい。					
	R4		ICTを活用したイノシシ捕獲対策実証 カモによる農水産物被害対策事業 イノシシ等捕獲技術習得研修 ジビエ普及のための大学のPR活動 広域捕獲活動支援事業	佐賀県			ICTを活用したイノシシ捕獲対策実証では、見回り等の負担軽減につながるICTの効果について実証ができた。 カモ対策では、カモの飛来数を軽減するために、有効的な捕獲対策の実証や行動を把握するために食性調査を実施することができた。 捕獲技術習得研修では、県及び市町職員が専門家から捕獲技術の知識を習得し、指導者の育成及びレベルアップを図ることができた。 ジビエ普及については、あまり聞きなじみがない学生に対してジビエの存在から特徴などをPRすることができた。 広域捕獲については、イノシシの生息調査により生息実態を把握し、効率的な捕獲方法を検討するとともに、地域住民の被害対策意欲を向上させることができた。											

5 都道府県による総合的評価

今回の評価にて目標を達成した協議会は5協議会、未達成の協議会は7協議会となり、半数以上が目標未達成という結果となった。目標達成に至らなかった要因として、被害に直結する加害個体の捕獲難易度が高く、加害個体の捕獲が進まなかったこと、近年新たな鳥獣被害としてカモ被害が深刻であるが、対策が難しく被害が防止できなかったことが挙げられる。また、侵入防止柵の未整備地区では依然として被害が発生している状況である。このことから、県では捕獲従事者の確保・育成に向けた取組や、カモに対する効果的な対策の検討及び実証を実施し、被害軽減に向けた各協議会への指導及び情報共有を行う。また、これまで実施してきた「棲み分け対策」「侵入防止対策」「捕獲対策」を継続して推進し、有害鳥獣被害の軽減を目指す。